

☆せんきょフォーラム

冬の恒例、せんきょフォーラムを今年度も実施。区内小学校4校にて6年生を対象に出前授業と模擬投票を行いました。

最後の給食のメニューやデザートなどを模擬投票で決めるとあって、生徒のみんなも気合十分!!

工夫を凝らした選挙公報、パワーポイントや模造紙を利用した演説など、当選にかける熱い想いを見せてくれました。

また、本年度は明推協推進員の方にもお手伝いいただきました。冷え込みが厳しく、また雪が降る中でのご協力、誠にありがとうございました。

▶本番と同じ器材を使っての投票に、みんな興味津々。



十人十色の立会演説。みんなの主張がよく伝わりました。◀

☆横浜市・区明るい選挙推進大会

▶今年度は青葉区が活動報告を行いました。



2月14日、横浜の新都市ホールにて、横浜市・区明るい選挙推進大会が開催されました。講演はテレビでも大人気の歴史研究家、河合 敦氏による「選挙の意外な歴史」でした。「日本で初めての選挙は奈良時代に行われた!?!」など興味深いお話に、参加された推進委員、推進員の皆様からも驚きの声が上がりました。また、青葉区が活動報告を行い、作文コンクールなどの取り組みを紹介しました。



クイズ de えら坊



分かるかな?

Q イギリスの議会において、野党と与党の席の間に2本の線が引かれています。この線のことをなんというでしょうか。

1. ソードライン
2. ティスカッションライン
3. パティエンスライン



コシ

正解は中面に!!

編集後記

今年の冬は雪が降ったり気温が低い日が続いたり大変でしたが、明推協の活動としては大変ホットになりました。特に作文コンクールは青葉区では初めての実施であり、大きな反響を呼びました。今後も新しい啓発活動に取り組んでいくとともに、若年層への啓発も継続していきますので、皆様にも一層のご協力をいただければと思います。

あおばイコット通信
平成30年3月号

<編集・発行>
青葉区明るい選挙推進協議会

<事務局>
青葉区総務課統計選挙係
TEL:978-2205 FAX:978-2410

平成30年3月号 青葉区明るい選挙推進協議会の「今、をお届け!」

あおばイコット通信 No.62



今回は作文コンクール特集号!!
数多の作品から選ばれし珠玉の3作品を本紙に掲載!!
これが青葉区中学生達の本気だ!!

☆青葉区明るい選挙推進作文コンクール

応募総数 216 作品

明るい選挙推進協議会のHPはこちらから!!



佳作を含めた13作品は、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページでもご覧になれます。



沢山のご応募、誠にありがとうございました!!



▲ 12月に行われた表彰式。皆さんの眩しい笑顔が印象的でした。受賞者の皆さん、本当におめでとうございます!!

本年度新たな取り組みとして、「青葉区明るい選挙推進作文コンクール」を実施しました。区内中学校を対象に、9つの学校から多数の作品が集まりました。

「青葉区明るい選挙推進協議会会長賞」・「青葉区選挙管理委員会委員長賞」・「青葉区長賞」と、えら坊賞(佳作)10人、合わせて13の方が見事に入賞されました。

今回のコンクールを通じて、多くの中学生やそのご家族が、選挙に対して興味と親しみを持っていただければ幸いです。



上位3賞の作品は本紙に掲載されているよ!!

気になる方は中面へGO!!

青葉区選挙管理委員会委員長賞

投票率について

谷本中学校一年 松井 優里さん



私は横浜市に住んでいる。先日、横浜市長選挙が行われた。私は中学一年生なので、選挙権がない。だから、これまで選挙に興味を持ったことがなかった。しかし、この間たまたま通りかかった選挙カーから、「中学校の給食を実現します！」という声が聞こえてきて、自分に関係のある話をしていると思つて少し興味が出てきた。それから、横浜市長選挙のニュースなどテレビや新聞で、できるだけ見るようにした。

私が選挙の様子を見てきて、一番驚いたことは、投票率の低さだ。なんと、約三十七%なのである。横浜市長という、横浜市を代表する人を決めるための選挙で選挙権を持っている人の半分も投票していないということだ。これは非常事態なんではないかと思つたら、それでも前回の市長選挙の時よりも投票率は良かったらしい。また、今回の選挙では、林文子氏が再選された。新聞には「圧勝」と書かれていた。ちなみに林氏の得票率は約五十三%だ。つまり、投票した人の半分以上が林氏に投票したということになる。

数字ばかりでは分かりにくいので、身近なところで考えてみることにした。私のクラスは三十六人だ。三十六人のうち、約三十七%が投票した。そのうち当選した人に投票したのは約五十三%だとすると、クラスの人数三十六人のうち、当選した人に投票したのは約七人ということになる。三十六人のうちの七人。それが「圧勝」といわれると、ものすごく違和感がある。七人の意志がクラス全体の意志とされてしまうのかと思うとモヤモヤする。でも、今回の横浜市長選挙って、そういうことなんじゃないか。それでいいのかなあと感じた。

やっぱり、投票率があまりにも低いのは、問題だと思う。もちろん、法律できちんと決められたように選挙をしているのだから、表面上は問題ないということなのだろう。でも、私の感覚からすると、半分以上の人が投票していない選挙で決まったことなんて無効だ。意味がないのではないかと思う。いろいろな事情がある人もいるだろうし、100%は無理としても、80%くらいの人が投票する社会になってほしい。多くの人が、政治に関心を持って自分の意志を反映させるようになるべきだ。よく、選挙に行かない理由の一つに、「自分が投票しても何も変わらない」という人がいるけれども、まず参加しないとそれこそ何も変わらないのだ。自分の住む街や県や国に関心を持って考えて参加する社会にしていく必要があるのではないか。

青葉区明るい選挙推進協議会会長賞

横浜市の青葉区の投票率を上げるために

市ヶ尾中学校二年 渡辺 悠希さん



投票率、これは横浜、日本が抱えている一つの課題だと思う。ちなみに、昨年、平成二十八年参院選の横浜市の投票率は、五十六・三三パーセント、青葉区は五十八・九九パーセントとどちらもあまり高い投票率だとは僕は思えない。では、どうすれば横浜市、青葉区の投票率を上げることができるだろうか。僕は二つの投票率を上げるアイデアを考えた。

一つ目は、若者の投票率を上げるために、投票に参加するとポイントがたまり、たまつたポイントで、横浜市内のお店などで使える商品券などが当たる抽選に応募できるシステムを導入すればいいと思う。そうすれば、投票率が上がるだけではなく、横浜市の活性化にもつながり、投票も横浜も盛り上がるのでいいと思う。また、子どもと投票所に行くポイントが二倍になる、など未来の横浜を背負う僕たちにも選挙について考える機会を多く作ることで、今の投票率だけではなく未来の横浜の投票率を上げることができ、より未来に希望が持てる横浜を作ることが出来ると思う。

二つ目は、高齢者の投票率を上げるためのアイデアだ。高齢者（ここでは、七十歳以上の方を対象とする。）の投票率は、一見高いと思うが実際は市全体の投票率とあまり変わらない。この原因として考えられることは、投票所に行くのが大変ということだ。日本は高齢社会なので高齢者の投票はとても大きなものとなるため、より多くの高齢者の投票が必要である。しかし、行きたいけど行けないという方が多くいる。そこで、僕はこんなアイデアを考えた。老人ホームに投票所を設置する。また希望者には自宅訪問で選挙をしようというアイデアだ。大変で困難なことかもしれないが様々な経験をしている高齢者の投票率は横浜をよりよいものにしていくための大切な一票だと思うので努力を惜しまず高齢者の投票率を上げる対策を多くするべきだと思う。

投票率を上げることは困難なことだと思う。しかし、横浜全体で投票率を上げるため横浜市民一人一人が選挙に触れる機会を増やし、横浜の未来がより明るくすばらしいものになるようにしているけるよう市全体で課題を克服できるように様々な意見を取り入れ、それを実施して投票率を上げることができれば僕は良いと思う。また僕自身もこの作文を書くにあたって選挙について少し知ることができたと思う。これを自己満足で終わらせるのではなく、誰かに伝えていくなど今、僕にできる最大限のことをし、横浜市の青葉区の投票率を上げることに少しでも貢献できるようにしたい。

青葉区長賞

「何でも良い」と言わない

市ヶ尾中学校三年 丹野 清凜さん



「今日の夕飯、カレーと肉じゃが、どっちがいい？」私の母はときどき、家族に夕食の献立は何が良いかを聞く。そして、希望が多かった献立がその日の夕飯となる。要するに、多数決だ。私には弟がいるのだが、私が「何でも良い。」と言つると、「それはダメ。一つ決めて。」と言う。最近、弟のこの発言は大切なことだと気付いた。何でも良いと言つていたら、私が食べたものはずっと作らないかもしれない。弟の好物ばかりになるかもしれない。もしそうだったとしても、私には文句を言う権利はない。なぜなら私は「何でも良い。」と言つたからだ。

自分の意見を持ち、それを誰かに伝えることは、日常生活の多くで必要だ。夕食の献立や学校、部活動でのルール決めなど、複数の人で一つのことを決めることは多くある。話し合いでも多数決でも、参加しない人は必ずいる。そういう人に限つて、あとから文句を言いだす。自分の意見があるのなら、決めるときに参加してほしいと思う。



中学生が決定に参加できる物事といえ、最大で学校単位くらいだ。それが十八歳になれば、選挙権が与えられて、市や日本の物事の決定に参加できるようになる。去年の参院選で青葉区の十代の投票率は、六十三パーセントと横浜市で一番だった。これで満足してはいけないと思う。あと三十七パーセントの人たちは投票していない。そして他の地域では投票率はもっと低い。若い世代の人数は少ないから、より投票率を高くしなければならぬ。そうでないと、私たち若い世代の意見は通らない。若い人が、政治なんて「何でも良い」と思っていると思われてしまう。

若い世代の人たちは、全員が今の社会に満足しているのだろうか。改善してほしいことがあつても伝えなければ何も変わらない。まして市、県、国単位のことならば大人で訴えなければならぬ。そこで一番使える方法が選挙だと思ふ。若い人の投票率が上がれば若い人は「何でも良い」人ではなくなるはずだ。そうすれば、若い世代の意見も重視される社会になると思ふ。

中学生の私には選挙権はまだない。そして私は社会について何も知らない。あと三年で選挙権を持つことになるが、そのときまでにしておきたいことが二つある。一つは社会について知り意見を持つこと。もう一つは自分の意見を伝える自信を持つことだ。そのため、あと三年間、授業やニュースで社会を知り自分の意見を持つ。また、家でも学校でも何かを決めるときは意見を伝える。今から選挙の準備をしても早すぎではないと思う。なぜなら、選挙に行かないなんてことはしたくないからだ。

「これからの日本、どんな国にしたい？」と聞かれて、「何でも良い」とは絶対に言いたくない。